

エピソード34

学級づくりのビジョンを
保護者に伝えました。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験
があります。エデュサポネットのファ
シリテータです。



小学校の先生の、若い頃の
経験をお聞きします。

僕が初めて高学年を担当した時のことです。
子どもたちは、様々な場面で「前の先生の
ときは」と前担任のことを口にしました。

その言葉が、僕には「前の先生の方が
よかった」と聞こえて辛かったです。





先生は、どうしたのですか。

僕は子どもたちから話を聞いて、同じようにやってみようと試みました。

でも子どもたちから「全然違う」と言われ、ダメな先生だと思われるのだろうな…と本当に自信をなくしてしまいました。





自信をなくしてしまった先生は、
その後どうしたのですか。

先輩の先生に話を聞いてもらいました。
そして、どうしたらいいか尋ねました。

すると先輩の先生は、うなずきながら
笑い出したので、僕はびっくりしました。





先輩はどうして笑い出したのですか。

先輩は「まだ経験の少ない君が、大先輩の真似をしようと思ったって無理だろう？」

それに子どもたちだって、慣れたやり方が楽に決まってる」と言いました。





その先輩の言葉を聞いて、
先生はどう感じたのですか。

「それはその通りだけど、じゃ、僕はどう
したらいいんだ」と心の中で思いました。

すると先輩は「自分でこうしたらいいと
思う方法を見つけて、自信を持ってやって
みたらいいよ。がんばれ」と言いました。





先輩の先生は、他にも何か話してくれましたか。

子どもたちが前の担任のことを口にするのは、君への甘えなのかもしれないよ。

君がそのことばかり気にして、自信を無くしてしまえば、子どもたちはがっかりする。「こんな方法はどうだ」って、子どもたちと一緒に学級をつくっていくことが、大事なんじゃないかな、と話してくれました。





先生はその言葉を聞いてどう考えましたか。

自分はまだ新米、できなくて当たり前だ。でも自分なりに最善の方法を、子どもと一緒に一生懸命考えていこう。子どもは僕の先生だ、と思うと心が軽くなりました。

懇談会でその話をすると、保護者も「先生、頑張って」と応援してくれました。





先輩の先生が話してくれたことで、
後々、大切にしている言葉はありますか。

先輩は、担任を離れるとき「先生たちには
それぞれのやり方があります。次の先生の
やり方はどんなかな。楽しみだね」
と、子どもたちに伝えているそうです。

僕も先輩を見習って、今でもそのことを
子どもたちに伝えるようにしています。





なみちちゃんの一言

- いろいろな学級を見ていると、それぞれ学級の雰囲気があります。同じ先生でも、子どもが違えば雰囲気もまた違ってきます。
- 上手な先生のやり方を真似することも、一つの方法ですが、目の前の子どもの実態に合わせて、徐々にその学級の色合いになっていくものなのかもしれません。
- そんな自分のやり方を、保護者に伝えることで、保護者も安心し応援してくれるのですね。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)